ISSN 1340-2609

兵庫県立歴史博物館紀要

塵界

第 34 号

姫路藩士・下田桂屋と文人画家・浦上春琴
—『桂屋遺稿』にみる文雅の交わり— 山口奈々絵 1

【資料紹介】明治期の広告契約に関する文書 吉原 大志 11

【資料紹介】「城郭巡視日記」(二) 竹内 信 19

【報告】改修工事期間中における博物館資料の保存環境について 山口奈々絵 吉原 大志 30(39)

【活動報告】2021 年度れきはく連続講座
「野里界隈まち歩き講座」の実施について 鈴木 敬二 38(31)

【活動報告】博物館における展示情報の提供と博学連携
—“ひょうご五国”歴史文化キャラバン 竹内 信
赤穂会場の取り組みを事例に— 前田 和彦 48(21)

【展覧会記録】巡回展「“ひょうご五国”歴史文化キャラバン」について 香川 雅信 50(19)

大坂仏師「宮内法橋」と
神出仏師「厚木民部・保省」の作例、修理例表の修正 神戸 佳文 68(1)

2023(令和５)年３月

兵庫県立歴史博物館

【資料紹介】

「城郭巡視日記」（二）

竹内　信

本稿は尼崎市立歴史博物館所蔵の「城郭巡視日記」（遠藤泰道文書－二五）のうち、明治五年四月十八日条から五月二日条（京都府～大阪府）までを翻刻したものである。それ以前の個所については、すでに前号掲載の拙稿末尾に付した〔史料9〕において翻刻を行っている。(註1)併せて参照されたい。

〔史料9〕（承前）

本日午後第二字舞鶴ヲ発シ二里ニシテ丹後・丹波国境黒谷村ニ到ル、四字半ナリ、夫ヨリ三里程ヲ経テ夜十字綾部ノ亀甲屋ニ投宿シ出張所ヲ問フニ、当所ハ山家出張所ニテ管轄シ、官員不在ノ由故ニ直チニ一書ヲ山家ニ投シ、明朝官員ノ出張ヲ促ス、此使帰来暁ニ至ルト云フ

十九日〔欄外「綾部」「四□□」〕晴天、朝八字比京都府山家出庁渡辺定能来リ、旧県吏ヲ呼出シテ倶ニ陣地ヲ見ルニ、当所ハ東西山間三丁程ノ平地ニシテ、南ハ陣地ヨリ稍下リテ田ヲ為シ、山マテ五丁斗ナリ、北ハ二丈有余ヲ下リテ町家ナリ、表門ハ北ニ向ヒ、元藩庁ト唱フルモノ東ノ山添ニシテ結構古カラス、聞クニ安政年間焼失シ、新ニ建タルモノナリト、過半瓦葺ニテ用ユルニ足ル、東北間旧知事私費ニテ建タル家既ニ毀チシヲ以テ多ク兵ヲ容ル可ルス(ママ)、先ツ二小隊ナラハ十分ニ容ル可シ

市中ハ陣門外北方ニシテ東西一線、「茅屋ニシテ瓦屋稀ナリ人煙凡五百余戸、士族卒ハ○東〔欄外「西」〕ニ居住シ、又ハ市中ニ散シテ凡二百戸斗ナリ、営内火薬庫〈三間、二間〉武庫〈三間、六間〉ノ二アリ、構内水ハ十分ニシテ湧出スルモノナリ、炎天ニ旱セス

陣営ニ添フタル(ママ)東ノ一山ハ陣屋附ノ山ナリ、濠池ナシ、門外ニ一ノ曲折シタル水溝アルノミ

〔欄外「和知谷」〕陣屋ヨリ十町斗井出村ト云フ処ニ「ワチ」川△ト云フ　又阿雲川ト云

アリ、由良川ニ合流シ以テ水運ヌ可シ、由良湊ニイタリ、又福知山ノ方ニイタル可シ、併シ大船ハ通セサル可シ

当所ヨリ井出村ノ方不毛ノ地アリ、広所巾拾丁モアラン、其他近辺ニ一万坪斗ノ不毛地アリ、随分練兵場ト為ス可シ

当地ノ地形及市街等山家ニ比スレハ稍可ナレトモ、又一小村ニ同シ、物品ニ乏シク市中モ貧窶ノ体ナリ、産業ハ農商ノ〔欄外「外養蚕・製茶ナレトモ盛ニハナシ、馬匹ナシ」〕、

〔欄外「当所ヨリ里程」〕東山城境大江阪へ十四里半、西南播丹境久下峠へ九里半、西北但丹境登リ尾峠へ七里半、南播丹境秀阪へ十三里、北丹後丹黒谷へ三里半、東北若丹小和木村へ七里、城郭ヘハ福知山へ三リ、舞鶴へ五リ、山家へ一リ半ナリ

〔欄外「山家」〕午後三字比綾部ヲ発シ、県官ハ先ツテ帰来セシメ、山家ニ到テハ直ニ見分ノ約ヲ為ス、夫ヨリ道程五十丁ヲ経テ、四字半比山家ニ到リ、志賀屋ニ到リ、直ニ出張所ニ到リ、十一等出仕川嶋董守・渡辺定能ニ会シ、陣地ヲ見ルニ、渓川左右ヨリ合流スル突角ノ山ナリ、此山ノ東西山腹ヲ稍平カニシタルモノニテ麓ヨリ一丁余ヲ登リテ門アリ、門内左右士族ニテ羊腸タル山ヽヽノ左右ニ建立ス、此上ニ巾広所二十間斗ノ曲折シタル平地アリ、是住居地ナリト雖トモ、三年前焼失後建タル由ニテ、一小屋半小隊ヲ容ルヽモ狭隘ニ覚ユ

庫ハ五ツアリ、一ハ火薬庫、大ナルモノ四間ニ間、小ナルモノ二間ニ一間、用ユルニ足ラス、士族卒ノ家凡六十軒ト云フ

〔欄外「当所ヨリ里程」〕当地ノ景況ハ山端ニ造ルモノニテ、此山脈山城ノ愛宕及丹後辺ヨリ連綿トシテ来リ、此陣地山ニ止ル峰頭ニ式内伊也神社アリ、故ニ陣地ト唱フルモノ尤狭隘ナリ、水ハ一ツノ井戸アリ、他ハ渓水ヲ引テ用ユ

△廿日　晴天、朝第七字山家ヲ発シ、十字過ヨリ草野峠ニカヽヽル、此峠峻ニシテ上下五十丁余ナリ、夕七字二十分園部本町合羽屋ニ宿シ、書ヲ出張所ニ送ル（着、里八里）

△廿一日〔欄外「園部」〕晴、第九字比十二等出仕沼佐徳ナル者図面ヲ持チ旅宿ニ来ル、図上ニ就テ質問シ、而後郭内ニ入テ見ルニ、当城ハ元和年間創築ノ由ニテ、尤古リタル玄関其他纔ノ建家アリ、以テ当今出張所トス、狭隘敞屋漸ク一小隊ヲ容ル可シ、惣建坪二百七十坪斗ト云フ、之レニ反シ

テ驚嘆ス可キハ五箇ノ二重楼櫓ト城堞ナリ、一昨午年新ニ工ヲ起シ築シモ
ノニテ悉皆新築ナリ、多クノ巨石ヲ此山ニ運シ兵器ノ利鈍ヲ弁セス、新造
セシモ一新奇話ナランカト帆足氏ト共ニ絶倒(冷笑)セリ、如此無用ノ冗費ヲ以テ
士卒等カ帰農商ノ補ト為セハ国家ノ一裨益トモナランカ、
旧知事住所ハ已ニ毀チテナシ、又極メテ狭隘ナリ
当城ハ追手東向シ、搦手ハ西南間ニ面ス、井戸五所及用水ト唱フル石垣築
ノ溜池アリ、此西ヲ平均スレハ二百歩斗ノ平場ヲ得可シ
当(城)西北ヲ囲繞スル園部川ト云フアリ、下流亀岡ヨリ京ノ嵐峡ニイタル、
城地ハ勿論市中モ水難ナシ
二丸ノ後口後来本丸ト為サント云フ一ツノ山アリ、此上ニ又二重楼アリ、
四方ノ展眸ヲ許セトモ、四顧悉ク山岳ナリ、此城山ヲ距ルコト、東南北
ハ五六丁、西ハ十一二町ニモ及ヒ、互ニ凸凹セリ、満山桧杉雑木蕃森タ
リ、東南ノ間遥ニ京愛宕峰頭ヲ見ル、山壁歴然タリ、北城下ニ沿フテ当城
追手ハ東ニ向ヒ市街アリ、丁字ヲ為セリ、人煙市中五百五十五戸、士卒
四百八十三戸ト云フ

〔五行改行〕

午後第三字園部ヲ発シ、四里ヲ経テタ七字比亀岡旅篭町升屋丈右エ門方ニ
宿シ、書ヲ出張所ニ送ル、今夜十字比返書ト共ニ篠山ヨリ図面等ヲ差越シ、
園部ヨリ尋問ケ条ヲ送リ来ル

△廿二日〔欄外「亀岡」〕晴天、朝七字亀岡京都府十三等出仕開安宅ナル
者旅宿ニ来ル、図上ニ就テ城ノ景状ヲ問ヒ、且尋問ノケ条ヲ解説ス、尓後
城ニ入テ見ルニ、二丸・三丸・出丸共ニ市中(土地)ト平衡シ、本城ノミ稍高シ、
殿中ト唱フルモ格別広カラス、極メテ古ク履行危キ程ナリ、之ニ続テ五重
ノ天守アリ、登リテ見ルニ此楼モ甚古ク、種々ニ支柱副材ヲ施シ保全シア
レトモ、最上層東ニ傾クコト二尺ニモ及フ可シ、県官曰城郭及此楼ヲ頽ス
ル三千金ヲ費ス可シト、総テ屋上ノ瓦ナド製作ノ異ナルヲ以テ尋常ノ家ニ
用ユ可ラス、故ニ買手モナシト、実ニ城郭雑草茂生シ、一線ノ通路ノミナ
リ、聞ク百七八十(二百余)年前迄城内ニ住居セシカ、尓後常ニ空〔欄外「城ニテ武
具ヲ入レ置、又ハ火ユ術ナトノ外用ヒザリシ由」〕
当城ハ明智光秀建築ノ由ニテ、城門及扉其他殿中天守等巨材ト雖トモ、半
ハ朽敗ノ有様テ扉ノ板抔ハ悉々欠損スル程ナリ

山上マテ三里ト云フ、直径八一里ニ足ラス
楼上ヨリ眺望スレハ、東北ノ間京ノ愛宕山突兀タリ、北方尤開達ニシテ山
麓マテハ凡一里半余ナリノ間田畑ニシテ、北西ヨリ斜ニ曲折シテ園部川流
レ来リ、大川ト唱ヘ城北ヲ流レテ山間ニ入リ嵐山ニイタル、此川以テ水運
京師ニ通ス、東南西ハ総テ連山ニシテ、東ハ凡二十丁斗、老ケ阪峠ニ達シ
京ニ出ツ、南最遠キハ三十丁又ハ十五丁拾丁位ニ凸凹シ、間道以テ神戸尼
ケ崎ニ至ル可シ、西方連山凡三十丁内外ナラン
市中凡千二百戸、人口七千モアル可シト、人家ノ景況ハ富商甚稀ニテ生産
貧ナリ
大手ハ南ニ向ヒ、此門内右ノ角ニ旧藩庁ナルモノアリ、当時出張所ト為ス、
此処ニ到リ権典事某〇〔欄外「〇今村英信」〕ニ会シ、夫々談判シ此造営ヲ
見ルニ、又板葺多ク、且二百余年ヲ経シト、屋中処々支柱ヲ施シ、木色古
稀旧殿中ト唱フル程ノモノニ非ス、典事曰此屋迚モ住スヘラサル程ナル故、可
何レニモ新ニ役所ヲ設ル心組ナリト、如此家ナレトモ、強チ兵ヲ入ルレハ
半大隊位ハ容ル可キモ、直チニ破壊ス可シ
〔三行改行〕
午後一字亀岡ヲ発シ、老ケ阪峠ヲ越シ、道程四里半五里ヲ経テ西京二條神泉苑
ノ南神泉苑町若狭屋太郎兵エ方ニ宿ス、于時夕時七字ナリ、
△廿三日　雨、本日微恙ヲ以テ滞在ス
△廿四日〔欄外「二条」〕雨又晴曇、朝九字二条城ニ到リ、京都府参事牧
村正直ニ会シ情状ヲ問フニ、当城ハ辛未二月弁官伺済ニテ当府ヘ受取尓来、
旧殿中ノ外、所々新ニ屋宇ヲ建テ、今日ノ体裁ニ相成居候、先日城図ヲ差
出候砌、旧新色分ヲ以テ差出候由故、尚又図面及木数等取纏ノ、景況ヲ聞
クニ、当所ハ警衛即チ「ガルド」ト唱フル「ポリース」同様ノモノ而已ニ
テ甚淋シク、其上伏見ノ鎮台兵一大隊今日引揚ルヲ以テ大ニ確然タル抔ノ
噺アリ、後ニ聞ケハ交代ノ由ナリ、二条城ハ電信線モ通シアリ、所々造営
等ヲ為シ、日々ノ庶務モ多端ノ模様ナリ、市中ハ往来ノ隅角等ニ所々玻璃
灯ヲ設ケ、即今ハ博覧会モアリ、洋人モ多ク集リ、学校モ盛ノ様子ナレト
モ、市街ハ行人星散、前日ノ如クナラス
当城ヨリ山崎ヘ凡四里、老阪峠ヘ四里、伏見三里、淀四里、宇治五里、鞍
馬四里、白川二里半、追分ヘ一里半、丹波道山国下四里半、丹波保津村ヘ
川路四里ナレトモ凡三里斗ナリ

△廿五日　晴、朝京都府ヨリ城図及木数ヲ認メ差越ス、当所ハ運輸モ自由、尓他物品等ノ事モ人ノ知ル所ナルヲ以テ訊問セス、午字ヨリ京ヲ出立シ、四字過伏水ニ到リ木屋六兵エニ投宿ス

△廿六日　晴、本日十一字浪花行ノ蒸気船ニ乗シ、一字解艦ス、四字八軒家ニ上陸シ播磨屋ニ宿ス

△廿七日　晴、本日日曜日ニテ鎮台休暇ナルヲ以テ滞在ス

△廿八日　〔欄外「大坂」〕　晴、朝九字ヨリ鎮台ニ到ル、京橋口ニテ松下権大録及嶋崎某ニ逢フテ午後再会ヲ約ス、尓後由比(中村)少佐(註2)ニ面会シ種々談ス、然ルニ淀城ハ既ニ秘史局(註3)ヘ伺差出シ伺済ヲ以テ入札既ニ落札ニ及ヒシト、且其他分営ノ位置及連連扁線中ニ兵営ヲ置クノ如何ヲモ聞シニ、尚再考ト ノ事、且当時若小浜焼失ヲ以テ同所兵ヲ彦根ニ置ク、先ツ同所ヘ暫ク置ク故ニ、入札等具合呉ル様、及ヒ渡辺少佐出張シアレハ、小浜及敦賀等雪ニテ兵ヲ置クモ如何故、尚同人ニモ談シ呉レ候様トノ事ナリ、此時ニ讃高松分営ヲ入札セシニ依テ、兵ノ元気ニモ拘リ、葛岡等ヲ呼戻セシトノ噺シアリシ、尚又心得ノ為、大坂鎮台管下ノ城郭入札等承リ度由故、再会ヲ期シテ帰ル、夫ヨリ大阪府ニ到リ、広瀬大属ニ逢フテ、麻田・高槻等到ル旨ヲ告ケ、旅寓ニ帰リ、黄昏松下等来リ一酌ス

△廿九日　〔欄外「麻田」〕　晴、九字半大阪ヲ発シ、三里ヲ経テ三字半ニ麻田ニ到リ、池田出張所関権大属陣営図ヲ持テ来ル、旅宿山田太次郎ナリ

△晦日　曇又驟雨、九字ヨリ陣営ヲ見ルニ、土地ハ平地ナレトモ、高燥ニシテ西及東ヲ通シテ惣門アリ、一ツノ組○〔欄外「○屋」〕舗ノ如シ、東南開達、浪花ニ対シ、西武庫山ヲ距ル二里余、東北遥ニ淀川ノ方ヲ見ルト雖トモ、小丘岡連々タリ、北ノ山尤近シ、陣屋ハ総テ瓦葺ニテ新シ、十年来ノ新造ト云、随分三小隊位ヲ容ル可シ、当所ハ市街モナク、周囲ニ百四十軒ノ家アレトモ、農ノミニテ商ヲ為スモノ只二人ノミ○△貧村想フ可シ、陣営中用水十分ニナシ、陣屋ヲ半周スル巾三尺斗ノ小浅溝アルノミナリ、西ノ方二十町位ヲ距テ山崎ヨリ西宮ニ出ル西国街道アリ、〔加筆「○物品ハ総テ池田又岡ヨリ仰クト△」〕

当所ヨリ大阪辰巳マテ四里、尼崎三里、間道二里半、有馬温泉ヘ五里、能セ郡地黄村ヘ五リ半、高槻ヘ五リ半、亀山ヘ七リ余、笹山ヘ八里余、三田ヘ七里ナリ

当所貫属士族七十三家、内相戸スル者八人、卒廿三名、相戸五名、市中無

シ、実ニ一小貧村ト云フ可シ

本日直ニ発程シ、七里〔五リ半ナレトモ内ニ五十丁一里三アリ〕ヲ経テ、夕四字高槻ニ到リ大津屋ニ泊ス、此家工部省鉄道役人出張シ泊セリ

△五月朔日〔欄外「高槻」〕本日日蝕、晴天、朝八字過出張所役人宮本範・宮路茂方来ル、依テ尋問ケ条ヲ命シ、午後十二字ヨリ見聞ヲ命スルニ、同刻ニ至リ来ラス、旅店ノ亭主ヲ案内トシ出庁ニ到リ、須長・片岡ノ両権大属ニ会シ、彼是示談シ、夫ヨリ城中ニ入テ見ルニ、当城造営尤古ク、且平地ノ城ニシテ、三ノ丸ハ聊練兵場モアリ、士・卒族等多ク居住ス、二丸ハ狭隘本丸図上ノ如建物アレトモ甚古ク、床板等履ニテ歩スルニ甚危キ位ナリ、楼櫓等或ハ傾キ、或ハ白壁剥落ス、本丸中ハ空地ニテ、二重櫓及土蔵一所、他ハ竹林ナリ、凡五十歩ト百歩位ノ経緯ニ見ユ

一濠地游泥深シト雖トモ平日水少シ、南方ハ聊地低キ故、五六尺ノ水アリ、内外濠トモ

大雨ニ暴溢等モナシ

一郭内堀井戸多シ、当地ハ淀川ノ近傍ナル故ニ、市中其他水甚多シ、土ヲ穿テハ湧出スルナリ、

一当地人煙ハ貫(カン)属士族五百五十七戸〔欄外「三百七十七戸」〕、内二戸合居スルモノ十七戸、卒百六十九戸、内二戸合居スルモノ八戸、市街五百卅二戸ニシテ、家並等中等ニテ格別富饒ニハ見ヘズ、重ナル産業トテモ、五百卅二戸中工商二百七十一戸、農二百五十四戸、社人一戸、寺院六戸ナリ、市中ニハ牛馬トモニ無シ

当城ヨリ大阪(申酉)ヘ長柄ヲ経ルノ里程五里、河内ヘ越ユレハ五里廿丁斗、丑寅伏見本道四里、丑ノ方京ヘ五里余、亀岡子ノ方ニテ六里、酉戌ノ方麻田ヘ五里半、酉ノ方尼ケ崎ヘ七里、戌亥三田ヘ十二里ナリ、

当城ノ内練兵場アリ、図ノ如ク城地ハ石垣ヲ毀チ、濠池埋没スレハ平坦ノ地トナルナリ、西山尤近ク、其他山岳ニ遠シ、敢テ要害ノ地ニ非ス

△二日〔欄外「淀」〕晴、朝七字出立、道程三里ヲ経テ十一字頃淀出庁ニ到リ、岩村義比ニ会シ聞ニ、当城ハ大阪鎮台ノ引渡シ申二月三日大阪鎮台官員東條喜作・岸田孝太郎ヘ引渡セシ由、尤伺済ニテ既ニ札済ノ由ニテ当時当分鎮台兵一大隊屯在セリ、是レ伏見ノ兵ト交替セルモノナリ

城地ハ淀川周圍シ、夏秋毎歳洪水アリ、床上ニ及フ、度々ナリ

楼櫓其他ノ景況ハ入札済ナレハ敢テ贅言セス、

併シ随分穢キ城ナリ、其外厩等図ニ詳ナリ、

濠池游泥深シト雖トモ、平日蘆葦叢生等ニテ格別水モナシ、併シ淀川囲繞セル故、聊潅ユレハ直ニ深キニ到ル可シ

水運ハ所謂淀川アレハ言フニ及バス、士族卒ノ内五百九十八軒、内東南五十丁ヲ隔テ広野(註4)ト云フ処ニ居ルモノ九十八軒、卒三百五十七軒、就中十六軒ハ広野ニ在リ、町屋戸数六百八十四軒、就中寺二十ケ寺、神主二軒ナリ、総テ富饒ノ体ナシ

一人民モ重ナル産業モナシ、当所ヨリ東方近江国境東海道追分ヘ三里半、東伊賀国境大河原村ヘ拾里半、西丹波国境老ケ阪峠ヘ四里半、摂州境山崎宿ヘ一里十二丁、河内境八幡庄内橋本ヘ凡五十丁、大和国境木津宿ヘ凡六里、若狭国境洛北土中村ヘ凡八里、高槻城ヘ三里、二條城ヘ三里半、伏水ヘ五十丁ナリ、馬匹ハ士族ノ手馬五匹アリ、自他耕牛ノミ

〔三行改行〕

見分終テ一里半ヲ経テ伏見水六ニ泊ス

【註】

（1）拙稿「『廃城令』直前期における全国の城郭調査をめぐって―『陸軍省絵図』との関係も含めて―」（兵庫県立歴史博物館紀要『塵界』第三三号、二〇二二）、三一～四三頁。

（2）中村重遠カ。中村は明治五年三月十日陸軍少佐に昇進（「陸軍省日誌」明治五年第三号　壬申三月十日条）。十二日大坂鎮台地方司令官心得（「陸軍省日誌」明治五年第三号　壬申三月十二日条）。

（3）秘史局は兵部省時代に設けられた機関の一つで、省制度改変後も陸軍省・海軍省の双方に存在した。その職掌は省中の文案を管したほか、書類の受領分遣や金額の勘査を担当した。

（4）広野村。慶安二年（一六四九）淀藩主永井尚政奈良街道と大和街道の分岐点を中心とする路傍に民家を形成して新田集落を形成。独立して広野新田村または広野村とよばれるに至った。近世中期以降、淀藩主稲葉氏によって村域東部の宮谷山林中に淀藩の硝煙蔵が、また大開には藩主別邸があった。近代初頭には北部の通称三軒家地区が、同藩江戸詰の家臣たちによって開墾され、士族授産の地となった（『日本歴史地名大系26　京都府の地名』（平凡社、一九八一））。